

御国が来ますように!! あなたはどちらの国に生きるのか? 「なぜ彼らが形成されたのか?」

マルコ6:1~8

■ 本当に大切なものは何か?

ある人に4人の奥さんがいました。一人目の奥さんは一緒にごはんを食べたり、服を着たり、願ったことはなんでも共有できる人でした。二人目の奥さんは、競争が激しいなかで奪い取ってやっと手にした人でした。家にいるときには鍵をかけて大事にしまっておき、外に出るときにはいつも手を繋いで離さず、大事にしていました。三人目の奥さんは一緒にいると楽しい人で心が落ち着きましたが、お金がかかりました。四番目の奥さんとは時々、喧嘩になりました。なぜなら、彼女が悲しい顔をするからです。そのたびに彼は「お前とは会いたくない!週1回で十分だ!」と言いました。

ある日、王様から命令が出されました。国を出ることになった彼は、4人の奥さんに一人ずつ「一緒に連れて行くか?」と聞いて回りました。すると、一人目の奥さんは「私は生涯、あなたと一緒にいることはできません。」と言いました。二人目の奥さんは「私はあなたがいいから一緒にいました。だけど、今はあなたが良くなりました。他の人のところに行こうと思います。」と言いました。三人目の奥さんは「私は国境までは一緒に行くことができますが、そこから先は行くことができません。」と言いました。四人目の奥さんだけは「私はどんなことがあっても、あなたと一緒に歩みます。」と答えました。これは何のお話かというと、一人目の奥さんは「からだ」、二人目は「お金」、三人目は「家族」、四人目は「私たちのためにいのちをかけた彼(イエス・キリスト)」を表しています。

私たちはいつも偽りの情報に惑わされ、本当に大切なものがわかりません。そして優先度を間違えてしまいます。“本当にいいのか?”という疑いの声は私たちの視線をずらし、健康が第一、お金が大事、家族が一番…と、本当に大切なものを見失わせます。しかし、私たちの人生で一番大切なものは「NOと言ってくれる人」です。その方は私たちが良いときも、悪いときも【真実】を明らかにしてくださいませ。

■ 罪を理解して下さった方 (Understand) 十字架こそが神様の義

イエス様は私たちが裁くためではなく、“自分は罪人である”と気づくことができるためにこの世に来られました。罪とはメタノイア(的外れ)であり、本当の道から外れ、目的を見失ってさまよっていることです。私たちは、自分が的を外していることに気づいたとき、初めて元に戻ろうとします。例えば、子どもが口の周りにいっぱいチョコレートをつけているのに「チョコ食べていないよ」と嘘をついたとき、食べたことを罰したいのではなく、嘘をついたことを注意します。これと同じで、神様は私たちが責めたいのではなく、そうしてしまう私たちの行いを理解し、元に戻したいと思っておられます。

『私たちが大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。』(ヘブル4:15)

罪は私たちが責めるための道具ではなく、理解する(Understand)ためのものです。

『キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。』(ピリピ2:6-8)

イエス様は糞土にまみれた私たちの心を理解するために、一番低いところまで降りてこられ、すべてを負って十字架に架けられました。イエス様の十字架こそが神様の義なのです。

■ 神様からの評価<人からの評価>

『人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。』(マタ6:1a)

善行とは、ギリシャ語で(dikaioisune)と言い、「義」という言葉から派生した言葉です。「義」とは神様が行われることであり、私たちに義はありません。しかし、私たちは正義を相手に見出そうとし、いつもそこに争いが起きます。神様は正義を振りかざしてしまう私たちに、イエス様がされた方法、最善を尽くすことを教えてくださいませ。イエス様の行動はいつも『右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。』(マタ6:3)『あなたの右の頬を打つ者には左の

頬も向けなさい。』(マタ5:39)でした。しかし、私たちは真逆です。自分がやったことを人に言いたくなり、評価なんていらなと言いなながらも「すごいですね」と言われると嬉しくなります。パリサイ人たちは同じでした。彼らは善行を行うときにはラッパを吹き、人に見えるように、評価されるように頑張っていました。いつも誰かと自分を比較し、神様からの評価ではなく周りからの評価を大事にしていたのです。

■ 報いとは?

イエス様を十字架に架けるときのパリサイ人たちは怒りを顕わにしていました。普段は外側に表れていないものが、私たちの内側にあります。パリサイ人のような偽りの心、隠れている自分があります。しかし、その部分に光をあてなければ、どれだけ良い行いをしたとしてもすべてが犠牲となってしまいます。潜んだ悪は私たちの人生を壊し、大事な人との関係を壊し、大切なものを破壊していきます。そして「なぜ、私だけがこんな目に…」と私たちの視線を神様からずらししていきます。ですから神様は「なぜ、私だけが…」という人生から、「この痛みをとるときに神様の奇跡が起こるんだ」と言える人生へと変えてくださろうとしています。

イエス様は『隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。』と言われました。「報い」とはなんでしょうか? 報いとは「神様が一緒にいる」ということです。神様が一緒にいる人とは、自分の罪を理解した人なのです。

■ キリストの十字架に目を

イエス様は私たちの罪を赦すために十字架に架けられ、聖霊をおくってくださいました。しかし、罪があるところに神様は入ることができません。ですから神様は、罪を責めるのではなく、私たちが罪を認めて「ごめんさい」と悔い改めることができるように導いてくださいませ。なぜなら、神様が「あなたと一緒にいたい」と思っているからです。これが神様の愛です。

自分の罪がわからず、私は悪くないと思っていたパリサイ人たちは「マムシの末」と呼ばれました。評価を受けるためにだけ生きてると聖霊は去っていきます。人々の前でよい行いをし、ニコニコと振る舞う私たちの人生に聖霊は共にいません。ですから、私たちは自分の心に隠れた自分がいなか、しっかりと見張らなければなりません。大切なものから視線がずらされそうになるとき、神様の義(キリストの十字架)を思い返しましょう。私たちの人生のここぞ!という時に神様の義をとosするため、日々、自分が罪人であることを理解し、認め、神様と一緒にいることを選ぶ決断が必要です。

■ さいごに

マザー・テレサが駆け出しのころ、金貨2枚を持って司教のところに行きました。「私はこの金貨で孤児のための救済の家を建てたい」と申し出たところ、司教は「金貨2枚では家は建ちません」と言いました。しかし、マザー・テレサは「神様が私と共にいてくだされば、金貨2枚がなくても家は建ちます」と答えました。その後、彼女は孤児のための家を建てました。人々が不可能と思うことがあります。しかし、神様が一緒にいるならば、それは可能となります。

人に罪を定めることができるのは神様だけです。もし、私たちが自分で自分を責めているなら、それは神様に成り代わっている行為であり罪です。私たちの罪はイエス様の十字架によって赦されました。過去に生きず、神様と共に生きる生き方を選んでいきましょう。

【主の祈り】

『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。』

私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

私たちが試みに会わせないで、悪からお救いください。』
【国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。】

(要約者:岡本 享子)

(2023年5月7日)